

【小学校用】

新型コロナウイルス感染症に関連する人権への配慮について

新型コロナウイルス感染症の治療をする医師や看護師、病院で働く人、社会機能が止まらないように働く人、新型コロナウイルス感染症にかかった人や回復した人、これらの人たちの家族等の尊厳を傷つける行為について多くの報道がなされています。このような偏見や差別につながる行為は断じて許されないものです。また、これらの人たちが通学する学校、勤務する職場等に対する誹謗・中傷もあってはなりません。

新型コロナウイルス感染症の問題に直面している今こそ、自分の人権も他の人の人権も大切にする行動について一人一人が考え、実践しましょう。

偏見や差別による感染症拡大のメカニズム

偏見や差別が広がると、「感染したかも」と思った人が、それをかくすようになり、結果として感染症の拡大につながる。

新型
コロナウイルス
感染症

この新しいウイルスは分からないことが多く、まだワクチンもできていないため、不安な気持ちになる。さらにうわさ話やSNSの情報などで不安が大きくなる。

偏見
差別

不安

不安な気持ちが怖いという気持ちになり、考える力や正しく判断する力が弱くなる。ウイルスを遠ざけたい気持ちから、特定の人たちを「危険」と見なして、責めたり排除したりすることで安心しようとする。

問題解決のために、わたしたちに何ができるでしょうか。

みんなの人権を守る行動が感染症拡大も防ぎます。

▶ 不安な気持ちに向き合しましょう。

新型コロナウイルス感染症は、他の感染症に比べて分からないことが多く、だれでも不安な気持ちになります。さらに、メディアなどから得た情報によって、その不安が大きくなったり、怖いという気持ちに変化したりすることもあります。

大切なのは、その不安な気持ちをそのままにしないことです。自分の好きなことをする、好きな音楽を聴いたりリラックスするものにふれたりするなど、不安を小さくする方法を見つけましょう。信頼できる大人に自分の気持ちを聴いてもらうのもいいでしょう。

▶ 偏見や差別につながる行為は絶対にやめましょう。

新型コロナウイルス感染症は症状のない人もいますから、どこで、だれから感染したかは分からない場合も多く、だれでもかかる可能性があります。感染した本人を責めることはできません。

特定の人たちを科学的根拠もなく責めたり排除したりすることは偏見や差別につながります。絶対にやめましょう。

うわさや思いこみではなく、公的機関の信頼できる情報をもとに行動することが重要です。また、感染者やその家族、医療関係者等の状況や思いを自分のこととして考えることも大切です。

▶ インターネット上の情報に注意して、情報を発信する行為に責任を持ちましょう。

インターネット上には不確かな情報が数多くあります。そのような情報やうわさ話を信じて身のまわりの人に言いふらす、SNSで発信したり拡散したりする行為は、プライバシーの侵害、誹謗・中傷など、人権を侵害することにつながりかねません。

情報を発信する自分の行為に責任を持ちましょう。

監修：中央大学人文科学研究所客員研究員 高橋聡美（「心と命のサポート事業」講師）

発行 岡山県教育庁人権教育課

〒700-8570 岡山市北区内山下2丁目4番6号

TEL 086-226-7612 FAX 086-224-2134

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/153/>

「新型コロナウイルス感染症に関連する人権への配慮について」指導の流れ

授業時間 15分

【学習のねらい】	
新型コロナウイルス感染症に起因する偏見や差別は感染症拡大につながってしまうことを理解するとともに、自他の人権を尊重する実践行動への意欲を持つことができる。	
学習活動	教師の指導・支援
1 新型コロナウイルス感染症に関して起こっている問題について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表面上部の文章を読み、「社会機能が止まらないように働く労働者」について、補足する。(参考①) ○ これまで報道された事象をいくつか紹介し、感じたことを発表するよう促す。(参考②)
2 偏見や差別の問題が起きる理由や問題が引き起こす感染拡大について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表面下部の「偏見や差別による感染症拡大のメカニズム」をもとに、SNSの情報等により不安な気持ちが大きくなること、安心感を得るために特定の人を責めたり排除したりしてしまうこと、偏見や差別が感染症拡大につながることを説明する。
3 この問題に対して正しく行動しようとする意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 裏面上段を読み、不安な気持ちとの向き合い方を確認し、信頼できる大人に相談してほしいと伝える。 ○ 中段を読み、どんなに注意していても感染することはあり、感染者等への偏見や差別が不合理であることを確認する。また、新聞記事等に掲載されている医療関係者等の状況や思いを紹介してもよい。 ○ 下段を読み、インターネット上の情報の取扱いについて確認する。 ○ まとめに日本赤十字社作成の youtube 動画「ウイルスの次にやって来るもの」(3分17秒)を見せてもよい。 https://www.youtube.com/watch?v=rbNuikVDrN4

参考①

社会機能維持者（社会機能の維持にあたる方）の例

(参考)「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」(令和2年3月28日(令和2年4月7日改正))

- 生活支援関係事業者：介護老人福祉施設、障害者支援施設等の運営関係者等
- インフラ運営関係：電気、上下水道、ガス、石油、通信、データセンター等
- 生活必需物資供給関係：農業・林業・漁業、飲食料品の輸入・製造・加工・流通等
- 生活必需物資の小売り関係：食堂、喫茶店、スーパー、コンビニ、ホームセンター等
- メディア：テレビ、ラジオ、新聞、ネット関係者等
- 物流・運送サービス：鉄道、バス、タクシー・トラック、航空、海運、郵便等
- 行政サービス：警察、消防、その他行政サービス

参考②

報道された事象の例

- ◆ 感染が確認された人の家に石が投げ込まれてガラスが割られたり、壁に落書きされたりする被害が出ている。
- ◆ 感染した人についてインターネット上で名前や住所が公表されただけでなく、誹謗・中傷を書き込まれた。
- ◆ 医療従事者がタクシーに乗車拒否されたり、バスに乗ろうとしたときに他の乗客から「乗るな」と言われたりした。
- ◆ 教授が感染した大学では、制服を着ていた付属高校の生徒が見知らぬ男から「コロナ、コロナ」と言われたり、大学関係者の家族が勤務先から「出勤しないでくれ」と言われたりした。
- ◆ 学生が感染した大学には「火をつける」「感染した学生の住所を教えろ」と言った内容の電話やメールが寄せられた他、感染とは無関係の学生が飲食店への入店を断られたり、アルバイトを解雇されたりした。
- ◆ 保育園から、看護師、医療関係者の子どもは登園しないでほしいと自粛を求められた。体育館の外の窓から卒園式を見たという保護者もいた。
- ◆ 感染拡大地域を行き来する長距離トラック運転手の小学1年生の子どもが、学校から自宅待機を求められ入学式に行けなかった。保護者も子どもも体調に問題はなかった。

- 日本赤十字社が作成したプレゼン資料「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」も参考にしてください。

http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html